

健康管理にどうぞ

(市役所)に全自動血圧計を設置



市役所1階ロビーに設置された全自動血圧計

健康管理に役立ててもらおうと、十一月二十一日、市役所一階ロビーに全自動血圧計を設置しました。この血圧計は約百万円。操作は簡単で、筒状の器具に腕を入れ、スイッチを押すと、測定日時、最高と最低血圧、脈拍数を記録した

紙がすぐに出てきます。また、成人病予防に役立つチラシもいっしょに置いてあり、設置してから十五日間の利用者は延べ千四百六十八人と、なかなかの人気。市役所に立ち寄った際にはお気軽に利用してください。



表彰状を受ける八ッ映画の部最優秀の和田正文さん

第3回

南国ビデオ・スライド・8ミリ映画コンテスト

最優秀に〇〇 森本さんと和田さん

市視聴覚ライブラリー開設十周年を記念して、五十六年から始まった南国ビデオ・スライド・8ミリ映画コンテストの今年の入賞作品が決まり、十一月二十三日、市立中央公民館で表彰式と作品発表が行われました。

最優秀賞は、『奈路小学校大運動会』 森本幸栄(比江)▼優秀賞は、『秋の例大祭』はじめての氏子』高木正平(前浜)▼奨励賞は、『手

アフリカ難民救済に(久礼田小校)が廃品回収



廃品回収のお金を手渡す子ども会の代表

久礼田小校区子ども会(会員二百八十三人)が十一月十日、アフリカ難民の救済資金にと、廃品回収を行いました。今、県下の子ども会ではアフリカ募金活動が展開されていますが、同子ども会も積極的に取り組んでいるところというものです。子ども会育成者の皆さんは、まず子供たちにアフリカ難民の現状を知ってもらおうと、久礼田小でパネル展やスライドを上映し、子

供たちに取り組みへの意識を高めようことからはじめました。当日は、会員みんなが出て、新聞紙、段ボールや空きびんなどを回収。合計七万五千四百円の貴重なお金が集まりました。十一月二十二日には、子ども会を代表して、久礼田小六年生の山崎太夏子さんと山崎真由美さんの二人が、補導センターを訪れ、母子連の前田栄一運営委員長に「難民のために役立ててください」と手渡しました。

寸劇で検診を呼び掛け

〈中央保健所管内〉 健康づくり婦人研修会



検診の重要性を訴えるユーモラスな寸劇も演じられた健康づくり婦人研修会

家庭、地域の健康づくりは主婦の手からと、十二月三日、大塚地区公民館で中央保健所管内健康づくり婦人会研修会が南国市で初めて開かれ、講演や寸劇、体験発表などが行われました。中央保健所管内健康づくり婦人会(井上郁子会長)は南国市、高知市、伊野町、春野町、土佐山村、吾北村、鏡村の七市町村の婦人で組織。成人病検診などの受診啓発運動を進めており、研修会を毎年一回開いています。



この日の研修会には、市内の会員四十人、食生活改善推進協議会の委員二十人をはじめ管内の会員や関係者ら約百二十人が参加。井上郁子会長、小笠原市長らのあいさつの後、中央保健所の田上豊資保健予防課長が「最近の結核について」と題して、結核の恐ろしさなどについて講演しました。午後からは、南国市の西森律会長と伊野町の森沢律子会長の体験発表に続いて、市内の駐在保健婦と環境保健課の職員七人による子宮がん検診啓発の寸劇「働き者の花子さん」が演じられ、会場は大爆笑。ユーモラスな劇で検診の重要性を分かりやすく訴えました。その後、県総合保健協会の吉成幸弘事務局長から結核撲滅を目指す募金運動「複十字シル活動」についての説明や協力の呼び掛けがあり、集まった会員も今後の活動に意欲を燃やしていました。

湯川スミ氏が講演

〈世界連邦平和都市〉 宣言20周年記念式典



国際平和のための新しい世界秩序を、湯川スミ氏が講演

十一月二十二日、高ヶ池中学校体育館で市の世界連邦平和都市宣言二十周年を記念して、市、世界連邦建設同盟南国支部主催の講演会が開かれ、関係者や中学生ら約三百二十人が集まりました。講師は、日本人初のノーベル物理学賞を受賞した故湯川秀樹博士夫人で、日本世界連邦建設同盟会長の湯川スミ氏。国際連合を基盤に、その権限や機能を更に充実、強化して国際平和のための新しい世界秩序を作ろうという世界連邦の基本的な考え方など、一時開半にわたって講演しました。講演内容は、私たちは、視野を広げて世界に目を開かなければなりません。戦争は他人事ではありません。宇宙衛星は多量の核兵器の搭載が可能で、スイッチ一つで多くの人間を殺すことができます。現在、我々は核戦争の危機にさらされており、人類を六十回死滅させることができる核を保有しています。この核兵器の恐ろしさを知ってください。この危機を回避するには世論づくりが必要です。世界連邦の理念は、各国を世界政府というものに統合し、あらゆる差別や搾取を排除してあらゆる戦争を排除した人類共同体を創造することを目的としています。この運動は人々の意識変革の運動です。できるだけ多くの人々にその趣旨を理解してもらい、そして大きな世論にまで発展させることが肝要ではないかと思